

m



「ロータリーは
分かちあいの心！」
2007-2008 年度 RI テーマ
RI 会長 ウィルフリッド J. ウィルキンソン
第 2640 地区ガバナー 平原祥彰



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1529 回例会 20 年 5 月 19 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「我等の生業」

3. ゲスト紹介

地区社会奉仕委員長 笹島 良雄 様
(和歌山東 R C)
米山奨学生 呉 育羅 様

4. 出席報告

会員総数 69 名 出席者数 48 名 出席免除会員 1 名
出席率 71.64% 前回修正出席率 82.09%

5. 会長スピーチ

会長 山名正一君

米山奨学生の呉育羅さま、地区社会奉仕委員長の笹嶋良雄さま本日はご苦勞さまです。笹嶋さまには後ほど卓話よろしくお願いたします。

地区 WCS で 15 日～16 日にかけてフィリピンに行かれました会員皆様ご

苦勞様でした。お疲れのことと思います。昨年、我クラブにおいてもフィリピン・セブ島に行きましたが、その時の事が脳裏に浮かんできます。私たち日本は経済発展し、それなりの生活を送っていますが、世界に目を向けるとまだまだ悲惨な生活をしている方が沢山います。ロータリーが掲げる水問題、保健衛生・飢餓、識字率の向上等の援助を必要としている国々は多勢存在します。世界の人々が「人たるに値する」生活が送れるようにしたいものです。今月の 12 日、中国・四川大地震が発生してから 1 週間になります。地震による死者は現在 32,500 人、負傷者は 22 万強に上り、四川省だけで 450 万を超える人々が避難生活を強いられているようです。死者は最終的には 5 万人を超えるのではないかとされています。被災された皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

日本でも 1995 年 (H7 年 1 月 17 日) に発生した阪神・淡路大震災は記憶に新しいものがあります。6,434 人が亡くなりました。死亡原因の内、約 8

0%の 5,000 人が木造家屋の倒壊による下敷きでの即死。600 人が家具の転倒による圧死だったそうです。それらを教訓にして人的救助対策、救援医療対策、家屋の耐震対策、ボランティア対策等、多岐にわたる対策が立てられていますが、国民 1 人ひとりが事故の責任において日頃から震災に対する心構えをしておく必要だと思います。又、他人毎と思わずボランティア精神を養っていただきたいと思います。

今週 25 日の日曜日は家族例会です。魚谷委員長始め親睦委員会のお世話で「海遊館」並びに「なにわクルーズ探検隊」を企画していただいています。昼食にはホテルにて豪華な食事を戴きます。参加される方は商工会議所 8 時 30 分に集合ですので遅れないようにしてください。なお、翌日の例会は休会となりますのでお間違いのないように。

6. 幹事報告

幹事 上芝良造君

○メーキャップ
和歌山 R C

花畑重靖君 5/13 (火)

7. 委員会報告

○国際奉仕委員会 委員長 阪口洋一君
6/24・25・26、台湾彰化東南ロータリーの 13 周年に行きます。参加よろしくお願いたします。

フィリピンの国際奉仕活動に参加してきました。参加のみなさんご苦勞様でした。

[WCS 海外視察の報告]

5 月 15 日～18 日にかけて、本年度の WCS 海外視察で 3860 地区フィリピン・セブ島を訪問しました。



私たちの 2640 地区より 17 の RC (有田 2000、泉大津、貝塚コスモス、海南東、岸和田北、岸和田南、粉河、御坊東、堺泉が丘、堺おおいずみ、堺青陵、堺フェニックス、新宮、藤井寺、りんくう泉佐野、和歌山中、高師浜)、平原ガバナー以下 41 名のロータリアンに参加しました。

四つのテスト

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)
電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：山名 正一 幹事：上芝 良造 SAA：上野山 雅也

(4)

害救援団体・シェルターボックスは、サイクロンの被災者たちに真っ先に手を差し伸べた慈善団体の一つです。ミャンマーでは一刻を争う援助が必要とされているにもかかわらず、多くの国際団体が軍事政権により入国許可の足止めを食わされるという状態が続いています。国連の報告によると、このサイクロンで100余万人がホームレスとなり、10万人が死亡したと推定されています。



各ボックスには、テント、コンロ、浄水キット、道具、などの必需品が収められており、家族10人が半年間生活できるようになっています。

ロータリークラブの存在しないミャンマーにおいては、ロータリアンが救援活動に直接かかわることのできる範囲は限られています。しかし、アメリカのシェルターボックス事務所によると、オンラインでの寄付の数が急激に上昇している上、ロータリアンからの寄付の申し出で電話が鳴りっぱなしとのこと。オーストラリア、カナダ、ドイツの事務所でも、同じく寄付の件数が増えていると報告されています。

2000年にイギリス・ヘルストン・リザードクラブのプロジェクトとして始められたシェルターボックスは、短期間にして世界中のロータリークラブからの支援を集めるに至りました。現在まで、2,900万ドルを調達し、40か国余りの70件以上の災害に対し、救援活動を行ってきました。シェルターボックス1個につきかかる費用は1,000ドルで、資金の約半分はロータリークラブからの寄付によるものです。



インドの人々に健康な視力を

インド、タミルナードゥ州のコインバトール・セントラル・ロータリー・クラブは、20年近くにわたり、インド全国で予防可能な失明を防ぐための国際的な活動の中心的存在となってきました。

インド盲人福祉協会 (Blind Foundation for India) によると、インドでのおよそ1,500万件の失明のケースのうち約80パーセントは、治療可能または予防可能なものであるとしています。白内障、角膜疾患、糖

尿病性網膜症は、そのような疾患の数例です。

このような状況を懸念したコインバトール・セントラル・ロータリー・クラブは、サンカラ眼科協会 (Sankara Eye Foundation) と1990年に提携しました。同協会は、予防可能な失明を防ぐために活動しており、インド全国に複数の施設を持っています。コインバトール・セントラル・ロータリー・クラブは、ロータリー財団から167,000米ドルの保健、飢餓追放および人間性尊重 (3-H) 補助金を受け、インドと米国の地区の力を借りて、185万人の人々に対し援助を行い、5年以上にわたりコインバトールのサンカラ眼科センターで行われた1万件近くの眼科手術に資金を提供してきました。

それ以来、コインバトール・セントラル・ロータリー・クラブの活動はますます活発になり、ほかにも6件のマッチング・グラント・プロジェクトを主導しました。それらのプロジェクトの中には、インドと米国の6地区が参加し、国際的な慈善団体と手を組んで2007年に実施されたプロジェクトがあります。このプロジェクトは、最先端技術を用いた移動式機器を使って農村地域の40歳以上の人々に糖尿病性網膜症の検診を行うプログラムに支援を提供しました。この「視力の贈り物プログラム (Gift of Vision outreach program)」は、5,613回にわたり検診活動を行い、5つの州で3,200万人の人々を援助し、362,000件の眼科手術を無料で提供しました。



また、海外の複数のクラブが、財団から資金の提供を受けていない地区レベルの奉仕プロジェクトを通じて、コインバトール・セントラル・ロータリー・クラブと協力しました。その一例であるドイツのブレーメン・ハンサ・ロータリー・クラブとの活動は、約1,500件の眼科治療手術に資金を提供する多地区合同プロジェクトへと発展しました。サンカラ眼科センターの活動について耳にしたオランダのローターアクターは、手術室にかかる費用のために23,000米ドルを集めました。

